脳深部刺激療法をしているパーキンソン病患者とその家族への退院に向けた関わり（第２報）
～退院後安定した生活を送るために～

独立行政法人国立病院機構　奈良医療センター
〇保田 莉帆　住田 尚子

目的

脳深部刺激療法（以下DBS）を行う患者の手術前・後の患者の状態を調査を行い、認知機能の低下、抑うつ傾向となることが前年度の研究結果より明らかになった。
その他の要因の究明と昨年と同対象患者から同様の結果が得られるかを調査し、入退院を繰り返す要因を明らかにする。

方法

対象：2018年4月～2021年6月に脳深部刺激療法を受けた後、
A病院通院中のパーキンソン病患者10名
入退院を繰り返している群（以下繰り返し群）5名
入退院を繰り返していない群(以下繰り返さない群）5名
方法：直接カルテからの関連情報抽出
1）前回研究によるデータ
年齢、性別、手術日、サービス利用、介護者の有無、内服管理、MMSE、SDS、入院歴
2）今回追加データ
DBS埋め込み位置、介護サービス利用状況、外来によるDBS調整、外来記録
昨年との相違点、追加データによる比較検討の実施

【倫理的配慮】A病院臨床研究審査委員会の承認を得ており、研究対象者へは調査の目的や方法、個人が特定されるような表現は避け、匿名性に配慮し調査結果は本研究以外では使用しないこととした。

結果・考察

内服管理調査

繰り返さない群

	手術前	手術後	備考
F氏	介護者	介護者	介護者と同居
G氏	本人	本人+介護者	介護者と同居
H氏	本人	本人	介護者と同居
I氏	介護者	介護者	介護者と同居
J氏	介護者	本人+介護者	介護者と同居

介護者と管理

繰り返し群

	手術前	手術後	備考
A氏	本人	本人	飲み忘れあり 介護者と同居
B氏	本人	本人+介護者	介護者労働しており、帰宅後殻確認
C氏	本人	本人	１包化　息子と同居
D氏	本人	本人+介護者	自己調整している
E氏	本人	本人	自己調整している 夫と同居

自己管理が多い

自己調整している
介護者の協力が得られていない

A氏
週2回：訪問看護
その他：訪問リハビリ、通所デイサービス、訪問介護

C氏
週2回：訪問リハビリ
2か月に1回：訪問薬剤指導

社会資源活用

内服の管理を他者が介入することで飲み忘れを防止

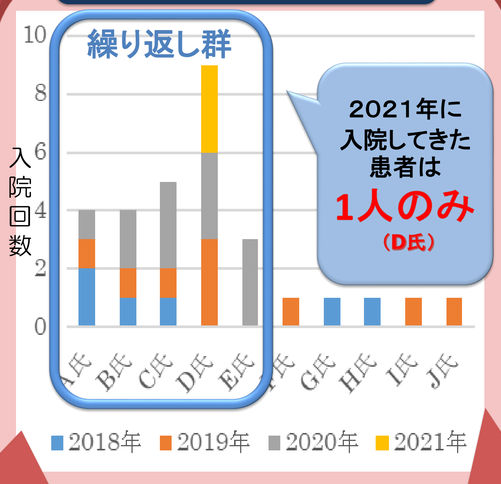
DBS調整

【外来記録】
DBS調整上手くいっている

【臨床工学技士】
前年度と調整方法に変更点なし

電話診療などの対応を開始
調子が悪い時は、早めに対応できるようになった

入院歴の結果



2021年に入院してきた患者は
1人のみ
（D氏）

新型コロナウイルスの影響

入院基準が厳しくなり以前のように入院できなくなっている

手塚によるアンケート調査より
Q:新型コロナウイルス拡大に伴い、何か良くなったことはありますか？
A：家族が在宅勤務となりサポートを受けやすくなった
と挙げられている。

結論

① DBS埋め込み術後は認知機能低下し、抑うつ傾向になりやすいため、正確に内服できないことが入退院を繰り返す要因の1つであった。そのため、介護者、在宅支援体制を整える必要がある。

② DBSの調整が悪くなった際に、早期に対応できることで日常生活に及ぼす影響、身体への影響を抑えることができ、自宅で過ごすことができた。

③ 新型コロナウイルスによる影響は、入院基準が厳しくなった一面、家族のサポートを受けられるようになった。

引用文献
1) 手塚俊樹,長田高志,寺山靖夫,他：パーキンソン病患者を対象とした新型コロナウイルス感染拡大の影響に関するアンケート調査,臨床神経学,62（1）,p8-14,2022